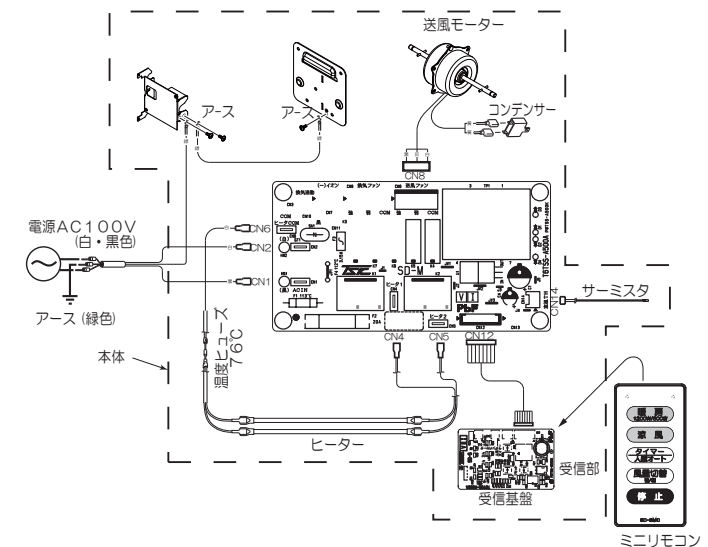




## 取付方法

### 1 取付位置の確認

この製品は、背後の浴室壁面または浴室天井面に電源コードを取り出すための貫通穴をあけることが必要です。取り付けには、必ずお客様の了承を得て、穴をあけても支障のない場所を選んでください。

#### 1. 機器を設置する壁は浴室内壁面であること。

#### 2. 取付可能な寸法の確認

天井面から30mm以上、両側壁面から200mm以上離して取付けできることを確認してください。(図1、2参照)

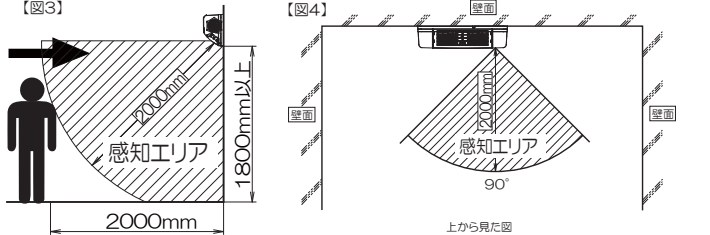
(天井面や壁面からのスペースを確保できない場合は、性能を十分に発揮できなかつたり、壁面や、造営物を熱によりいためることがあります。)

- 製品天井面から天井面まで、30mm以上
- 製品左側面から壁面まで、200mm以上
- 製品右側面から壁面まで、200mm以上
- 製品前面から造営物まで、500mm以上

※下方向の窓枠に突起物がある場合、変形・変色するおそれがありますのでオプション(別売品)の温風ガード(品番: RD-HG1)を取り付けてください。(施工後の試運転時、必ず確認してください。)

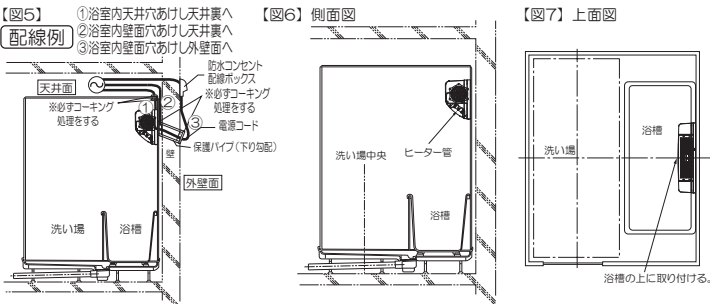
#### 3. 人感センサー感知エリア目安

下図の感知エリアを参考にして取付位置を選定してください。



#### 4. ヒーターの放射方向は、洗い場に向くこと。(図6、7参照)

#### 5. 電源配線確認(配線例参照)

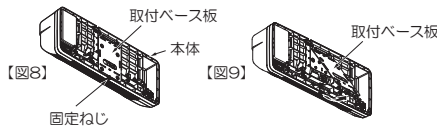


- ⚠ 注意
- ❗ 本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行う。  
落下により、けがをするおそれがあります。
- ❗ ねじが固定しにくい場合は市販のボードアンカー、補強材等を使用する。  
落下により、けがをするおそれがあります。

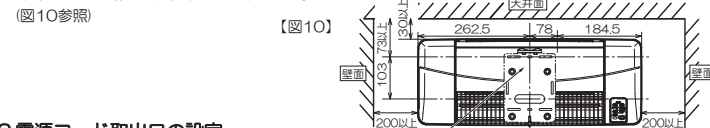
### 2 取り付け前の準備

#### 1. 製品から取付ベースを外す。

本体下部の固定ねじ1本をゆるめ、取付ベースを本体から外す。(図8、9参照)



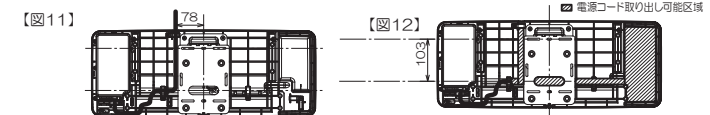
#### 2. 取付ベース板の取付位置を決める。



#### 3. 電源コード取出口の設定

(図11、12参照)

【電源コードを天井裏へ取り出す場合】



【お願い】 壁打ちセンサー等を使用して間柱・筋交いがないか確認してから作業をしてください。

#### 4. 電源コード通し穴位置と本体取付板ねじ穴位置(4か所)を壁にけがく。

■下穴をあける前に本体取付板をけがいた穴位置に合わせ、水準器を使用して水平度を再度確認する。

#### 5. 本体取付板のねじ穴をけがいたところの下穴をあける。(浴室内から外壁に向かって1/50~1/100の下り勾配で穴をあける)

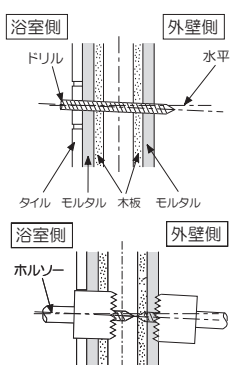
1) ロングドリルを使用して、下穴をあける。

浴室の内・外壁の現状確認を行い、タイル・壁等が損傷している場合には、お客様に説明し、了解を得ておくか、事前に補修を行っておいてください。

■タイルやタイル目地での下穴あけについては、タイルを破壊しないよう十分注意してください。

■ねじ締め前に下穴の周囲にシリコンを塗布してください。

■下穴径は、壁面の材質に合わせてあけてください。



### 取り付け前の準備 つづき

#### 6. コード保護パイプ外形穴をあける。

内径φ15以上の保護パイプの外形穴をあける。

■壁材質によって、ホルソーを選定してください。

(参考) タイル、モルタル・・・ダイヤモンド

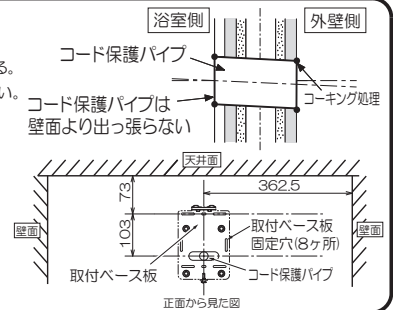
木板・・・木工用

塩ビ銅板・・・板金用

#### 7. コード保護パイプを取り付ける。

#### 8. 取付ベース板を取り付ける。

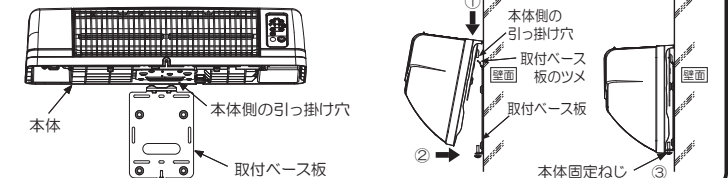
付属の取付ねじ4本を使って、取付ベース板を壁面に、また確実に取り付けてください。



### 3 本体の取り付け

#### 1. 電源コードをコード保護パイプに通し、外壁側へ持って行く。

#### 2. 本体側の引っ掛け穴を取付ベース板のツメに引っ掛け(①)電源コードを押し込みながら、本体を壁側まで密着させ(②)本体固定ねじで固定する。(③)



### 4 電源の接続

#### 注意事項

■必ず専用電源ブレーカーを使用して、15A以上を確保できるようにしてください。

やむを得ず他の機器と共用する場合でも、同時に運転した際に許容範囲内であることを確認してください。この場合は、点検の際に他の機器も電源を切ることにしますので、必ずお客様の確認を取ってください。

■緑色リード線を必ずアース接続工事をしてください。(D種接地工事)

■分電盤等からの電源工事は必ず有資格者が作業を行ってください。

■配線コードはVVFφ1.6/2.0以上かつ同等品2~3芯を使用してください。

■細い芯線のコードを使用すると、発熱により発火のおそれがあります。

■端子の接続部は、絶対に濡らさないよう防水処理を行ってください。

■電源コンセントは、絶対に使用しないでください。

■電源は必ず単相交流100Vを使用し、確実に配線を行ってください。

■間違った電源を使用したり不十分な配線をする、火災や故障の原因となります。

■本体の電源接続は、浴室内で絶対に行わないでください。

感電や火災の原因になります。

【配線例1】

防水コンセントに接続する場合

電源コードに付いている棒端子を直接防水コンセント裏側の連結端子台に接続してください。

【配線例2】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例3】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例4】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例5】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例6】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例7】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例8】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例9】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例10】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例11】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例12】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例13】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例14】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例15】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例16】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。

【配線例17】

コード同士を接続する場合

付属のクランプコネクタを使用して下図のように接続してください。